

(1) 内発的発展論を基底とした地域振興計画

地域社会が潜在的に有している各種地域資源（自然的・景観的・人的・文化的・生産的）の再発見・再認識に基づき、当該の地域社会が内発的発展を志向するための方策を探求している。

文献調査のみならず、地域の住民との協働に基づき、フィールドサーベイ、アンケート調査、インタビュー調査の実施・解析を通して、各種地域資源の具体的活用方策を検討し提案を行っている。

これは、過疎・高齢化をはじめ、地場産業の衰退、環境悪化など、多様な問題を抱える多くの地域社会の現状に対応したものであり、とくに、近年では、「観光」を「観_国之光_ = 国・地域の光（地域資源）をみ(観)る・み(観)せる」と捉え、地域住民が主体となり、既存の地域資源を利活用しつつ、「住んで良し・訪れて良し」の地域を実現する内発的観光創生の実現を試みている。

（２）維持可能社会の創生を目指した伝統的工芸品の保全・育成

伝統的生活工芸品の保全・育成のありかたを、維持可能な社会の創生の観点から考察・提案している。伝統的生活工芸は、元来、地域の人びとの自然との共生、人びととの共生の生活のなかから生み出されてきた「環境にやさしい」「人にやさしい」ものづくり文化である。地域の気候風土・人びとの暮らしが如実に表象された伝統的生活工芸品文化を地域の「宝」として振興することが急務である。

